

子どもは1歳ごろから、見たものを再現する遊びや、ぬいぐるみなどの世話をする遊びを始めます。2歳ごろからは積木などを車に見立てたりする「見立て遊び」や、自分が何かになった「つもり遊び」が始まり、ごっこ遊びにつながっていきます。年齢によってごっこ遊びは進化し、年長ごろになれば自分たちで役割や物語を設定したごっこ遊びを展開するようになります。

ごっこ遊びで子ども達は、「言語力」「想像力」「創造力」「観察力」「記憶力」「表現力」など、たくさんの力や社会性が育ち、心と体が発達します。

絵本「さるのせんせいとへびのかんごふさん」。へびのかんごふさんが、薬を飲んで患者さんに噛み付くとそれが注射になったり、シュールな展開が楽しいロングセラー絵本です。生まれた時から病院は身近な存在。体に関心を持ちだすと“おいしゃさんごっこ”へとつながります。子ども達の定番の遊びです。「どうしましたか、だいじょうぶですか」「頭がいたいです」「じゃあ休みましようね」など遊びの中でも相手を気遣ったり優しい言葉がけをしたりします。子ども達には、体は大切なこと、体の名称や働き、そしてプライベートゾーンについて、発達や理解度に応じた話もしていきましょう。

「わんぱくだんのバスごっこ」。わんぱくだんシリーズの一作目が発行されて30年以上。いろいろな遊びや冒険が描き継がれています。最新作が“バスごっこ”。子どもはお母さんのお腹にいる時からずっと動いています。赤ちゃんの頃は軽く揺らされながらだと眠りにつきやすいことも科学的に立証されています。多くの子どもは体を動かすことが好きですし、動く乗り物も好きなようです。

たくさんの楽しいごっこ遊び。子どもが自ら遊びを見つけられる環境を整えて、やりたいと思う遊びをさせてあげましょう。子どもは安心できる環境のなか、豊かな遊びで健やかに育ってきます。

「さるのせんせいとへびのかんごふさん」 穂高順也 文 荒井良二 絵 ビリケン出版

「わんぱくだんのバスごっこ」

ゆきの ゆみこ、上野 与志 作 末崎茂樹 絵 ひさかたチャイルド